中国地方
キラリ企業

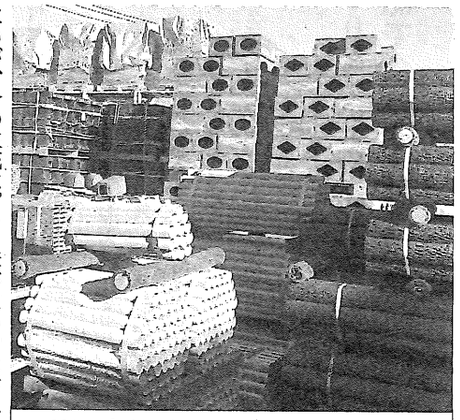
再生プラで農漁業資材

サンポリ（山口県防府市）

プラスチック製品製造のサンポリ（山口県防府市）はSDGs（持続可能な開発目標）が広がるはるか昔の創業当初からリサイクル素材を使った商品開発に取り組んできた。陶器製が中心だった漁業用タコツボを割れないプラスチック製で生産したことを皮切りに農業用や建設用など分野を広げてきた。近年の環境意識の高まりも追い風になってきている。

JR防府駅から車で10分ほどの工業団地内にあるサンポリの本社。出荷前の製品が積み上げられている中に楕円やひし形に穴の開いた箱が目に付く。

「タコツボというと丸い陶器製のツボ状のものを思い浮かべるかもしれないが、今の主流はプラスチック製の四角いタイプ」。積み上がった製品を眺めていると鹿嶋英一郎社長が教えてくれた。需要はピークの10分の1程度にとどまっているが、飛躍のきっかけとなった象徴的な存在だ。


サンポリはタコツボで国内トップシェアを占めている（山口県防府市）

サンポリが創業した当初は木製だった測量用のくいを生産した。ただ、競合も多く独自路線を歩むことを決める。鹿嶋社長は「父である先代社長が『世の中に必要とされる商品を開発しないと意味がない』と考えたことがきっかけ」と振り返る。

現在、主力分野となりつつある農業用資材。始まりは農家の困り事を聞いたことだ。1980年代後半から90年代前半は稲作用のあぜのシートは塩化ビニール製で、2～3年で劣化して使えなくなり買い替える必要があった。さらに設置し直すための労力もかかっていた。

状況を知って商品開発に挑み、80年代後半には製品化に成功する。鹿嶋社長は「プラスチック製にしたら、20～30年は持つようになった」と明かす。タコツボも漁業関係者からの声がきっかけで誕生している。

現場の声 開発に生かす

このため、サンポリが最も重視していることはユーザーの需要を把握することだ。最近になって売れ行きが好調なのはイチゴの高設栽培システム。発端は岩国市の農家からの1本の電話だった。

「木でつくってみたが、うまくいかない。プラスチック製でできないか」。受けた社員が報告すると、先代社長は自ら出向き、状況を把握。県の農林総合技術センターに相談して連携して開発した。しゃがまずに立って農作業ができるため、鹿嶋社長は「農業をやりたい若者らを増やすことにつながるはず」と期待を込める。

サンポリは創業当初からリサイクル素材を活用している。かつては「安かろう悪かろうの製品」と思われていたという。それが技術の蓄積で品質は着実に向上している。また、環境意識の高まりにより、イメージも上がっている。それだけでなく、製造の自動化など効率化にも取り組んでいる。

現在、200種類ほどの製品を取り扱っているが、新製品を積極的に投入。自社ブランドだけでなくOEM（相手先ブランドによる生産）も含めると年間4～5品に上る。的確に市場ニーズをつかんで製品開発ができるかどうかが、今後の成長のカギを握りそうだ。

（古宇田光敏）

会社概要	
所在地	山口県防府市
創業	1972年
売上高	15億4000万円(2022年9月期)
従業員数	68人
事業内容	再生プラスチック製品の製造

中国
支局☎
広島 082-224-1155
岡山 086-225-2071
鳥取 0857-22-2465